



## 昭和大学横浜市北部病院 消化器センター

最先端の医療を学び、世界へ発信する

工藤 進英 教授

【医局の特徴：「世界へ開けている」「内科と外科の垣根がない」医局】

当センターは、世界消化器内視鏡機関 (WEO) から厳選された世界の優良施設としてWEO Center of Excellenceに認定されており(世界で18施設、日本では当センターを含め2施設のみ)、工藤進英センター長の下、世界最先端の診断学・治療技術を「学べる」ことが最大の魅力です。消化器内視鏡の分野は日本が世界をけん引している領域であるため、私たちは国内外の多数の学会発表を通じて「学ぶ」というより、むしろ「海外への情報発信」を常に行っていると言っても過言ではありません。後期研修を始める先生は、まず、その年の米国か欧州の消化器病学会 (DDWまたはUEGW) に同行し、工藤センター長以下医局員が一丸となって海外で発表している様子を見学してもらいます (early exposure)。その後、日常業務の中で全般的な研修をしつつ、少しずつ興味のある分野で先輩の指導の下、研究・学会発表・論文作成を始めて頂ければと思います。さらに、当センターは「内科と外科の垣根がない」医局です。もともと全く別の組織を合体させることが極めて難しいことは想像に難くないと思いますが、ここでは工藤センター長の強い信念の下、2001年の開院以来ずっと1つの消化器センターとして歩んできました。

【研究：大規模な研究「世界初の医用AIシステムを創造」】

内視鏡中に、大腸病変をリアルタイムに病理診断予測する内視鏡画像診断支援ソフトウェア「EndoBRAIN® (エンドブレイン)」を開発しました。内視鏡分野では国内で初となるAI製品の薬事承認を取

得し、発売も開始しています。さらに大腸病変の検出支援ソフトウェア「EndoBRAIN®-EYE」など計4件の事業承認を受け、販売を開始しました。大腸の病変を検出するところから、治療法の提案、再発防止策にわたり、AIによって診療を包括的に支援する研究を進めています。

【診療：豊富な症例「ハイボリュームセンター」】

大腸がん内視鏡治療、大腸がん手術では毎年全国有数の症例数を誇っていますが、横浜市の中核病院として常に紹介・救急患者さんを受け入れているため、その他消化器領域の症例も十分な数があります。救急部やICUも充実しており、緊急・重症疾患を的確にマネジメントする能力が身に付くことは、今後の医師業務において非常に重要なことと考えます。

【教育・育成：「研修・研鑽を積むための整った環境」】

日本内科学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本外科学会、日本消化器外科学会等の認定施設として、認定医・専門医資格取得のためのプログラムに基づいた教育を行っています。加えて、内科のドクターは一定期間、外科で手術の勉強や術後管理を学べ、また外科ドクターは内視鏡や内科的管理を学ぶことができます。お互いの手技や疾患に対する考え方を日常の臨床の中で学ぶことができ、いつでも気軽に相談できる環境にあります。これこそ、「当センターの最大の長所」と考えています。ぜひ、一度見学・研修に来てください!!

文責：澤田成彦 (准教授 / 医局長)

### ■ HOSPITAL DATA

昭和大学横浜市北部病院 消化器センター

〒224-8503 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1  
問い合わせ ▶ info-ddc@showa-ddc.com

HPにはこちらの2次元コードから ▶



医局員	57人
指導医	25人
専攻医	13人